

文化財を歩く

379

名勝

天念寺耶馬及び無動寺耶馬

(大分県豊後高田市)

文化庁文化財部記念物課 文化財調査官

平澤 毅



写真1 天念寺耶馬(手前に川不動、中央に天念寺講堂)

中山・末山から成り、それぞれに本寺と末寺が設けられました。中世にはひとつの巨大な寺院として組織され、六郷満山と呼ばれるようになりました。そして、条里や荘園として開拓が困難であった半島中心部の狭隘な地域には、六郷満山を支える坊集落(寺院群の賦役を担った住僧による小規模な集落)が築かれていきました。

国東半島の自然に刻まれてきた風景は、こうした六郷満山の信仰や生活と密接に結びついた風土に固有な文化の伝統を直感させます。なかでも、国東半島の北西部に所在する天念寺耶馬と無動寺耶馬は、岩峰や岩屋、無明橋などから成る優れた風致景観であるとともに、西に向かって流れる真玉川の谷を挟んで相互に眺望の対象となっている点に顕著な特徴を有していることから、「天念寺耶馬及び無動寺耶馬」として平成二十九年十月十三日に名勝に指定されました。



写真2 天念寺耶馬の無明橋(平成29年4月の峯入り)

天念寺耶馬と無動寺耶馬
中山本寺に属する長岩屋山天念寺と小岩屋山無動寺の背後(北側)にそびえる岩山は、古代から中世

国東半島と六郷満山

国東半島は大分県北東部に位置し、両子山を中心として放射状に伸びる山並みと谷筋に耶馬溪層凝灰角礫岩の風化と侵食により独特な岩峰の風致景観が形成されています。こうした自然環境の下に、古来より両子山を巡るように営まれた来繩、田染、伊美、国東、

武蔵、安岐の六つの郷の暮らしとともに山岳信仰の場となってきた

国東半島では、平安時代後期に天台系修験と結びついて寺院群と険しい山々から成る数々の霊場が形成され、「峯入り」と呼ばれる回峰行を通じて深いつながりが育まれてきました。これらの寺院群は学問・修行・布教を司る本山・

の岩山群から成ります。山内には、石仏や石塔を祀った忌堂岩屋、小両子岩屋、龍門岩屋などの岩屋群のほか、険しい峯道や針の耳などの難所が古代以来の霊場の有り様を伝えていきます。龍ヶ鼻などの岩峰が屹立し、特に高所から深く谷を刻むところには、心に邪あれば落下してしまうと伝えられる無明橋(写真2)が架けられています。また、長岩屋川の河道中に所在す

る巨石には中世に水害除けを祈念して刻まれたとされる川中不動(不動三尊像)が風情を加え、天念寺講堂では毎年旧正月七日に古代以来伝承されてきた「修正鬼会(写真3)」が行われるなど、永く育まれてきた風土と信仰との結び付きを今によく伝えていきます。「修正鬼会」とは、五穀豊穡を祈る修正会と追儺式の鬼追いが結びついた火祭り、重要無形民俗文化財に指定されています。

一方、無動寺

写真4 無動寺耶馬

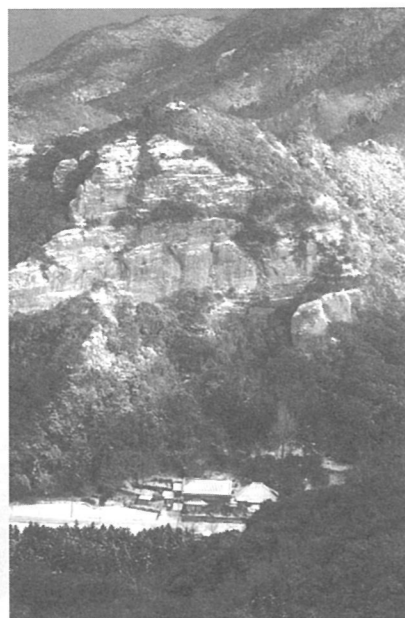


写真4 無動寺耶馬



写真3 天念寺講堂での修正鬼会



写真5 名勝指定記念シンポジウム

耶馬(写真4)は、真玉川の右岸の河岸段丘上に無動寺境内と身濯神社が所在する背後の屹立した岩山から成り、一枚の巨大な岩壁が聳える様相を呈しています。古くは黒土岩屋と呼ぶ霊場であったと推定され、現在の無動寺境内は西方約一・三kmに位置する下黒土の身濯神社の地から江戸

時代に移ってきたと伝えられています。天念寺耶馬と同様に、山内には石仏を安置する岩屋が設けられ、無明橋も架けられています。古代以来の峯道は南側の天念寺耶馬から北側の無動寺耶馬に続いていて、それぞれ無明橋が架かる付近からは相互の耶馬と谷に広がるかつての坊集落をよく望見するなど、二つの耶馬の密接なつながりが風景に刻み込まれています。

一三〇〇年を超えて

平成二十九年十二月二日に、豊後高田市役所のコスモスホールで名勝指定を記念する公開シンポジウムが開催されました(写真5)。そのパネルディスカッションでは、今日、国東半島が「仏の里」として広く知られるようになってきたのは、主に仏像や民俗に対する関心によるものであったところ、この度の名勝指定は、人々との関係で環境を考えるという点で、国東半島の魅力を更に深く理解し、その風土を将来に継承していくことの大切さを再認識させるものであることが強調されました。そして、名勝指定を契機として、更に組織的な取組を整え、峯道の手入れや岩屋堂宇の修復などのほか、様々な背景を持つ数多くの来訪者が実際に足で歩いて体験し、信仰や生活の積み重ねの中で永く育まれてきた風景に触れることへの期待も大いに示されました。

天念寺耶馬の麓に整備された長岩屋伝統文化伝習施設「鬼会の里」では、小両子岩屋に安置されていた重要文化財「木造阿弥陀如来立像」などの諸仏や歴史資料を所蔵紹介したり、修正鬼会に関わる映像や民俗資料を公開したりしているほか、地域活性化の拠点として郷土食の普及などにも取り組んでいます。名勝地としての再認識は、そうしたことと併せて地域文化振興の益々の広がりを促すものとなるでしょう。

さらに、今年は、八幡神の化身である仁聞菩薩が国東半島の谷々に寺院を設け、六万九千軀もの仏像を彫り、六郷満山を開かれたと伝えられる養老二年(七一八)から一三〇〇年となることから、昨年以來、国東半島地域を挙げて様々な取組が企画、運営されています。天念寺耶馬及び無動寺耶馬の名勝指定は、一三〇〇年にわたって国東半島の風土に育まれてきた伝統と文化を風致景観の顕れに見る名勝地の観点を明らかにした点で、六郷満山を巡って連続と続けられる様々な文化資源の取組にも、新たな将来像を示唆しています。